

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
ASO ポップカルチャー専門学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 7 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者等・地域住民などの学校関係者が、ASO ポップカルチャー専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏 名	所 属(役職)	出欠
業界関係者	足立 憲一	株式会社ワコム(アカウントマネージャー)	出席
業界関係者	今治 智隆	株式会社ヴァイス(代表取締役社長)	代理出席
業界関係者	金子 文雄	株式会社 NAGOMI(代表取締役)	出席
業界関係者	河原 洋	株式会社 studio A-CAT(博多スタジオ 支部長)	出席
業界関係者	久住 太陽	合同会社九十三(代表社員)	出席
業界関係者	小禄 卓也	株式会社ナンバーナイン(取締役 CXO)	欠席
業界関係者	鈴木 慎之介	株式会社プロジェクトスタジオ Q(代表取締役社長)	出席
業界関係者	瀧口 大介	株式会社マトリックス(福岡開発室 室長)	出席
業界関係者	宮迫 靖	株式会社 D・A・G(本部長)	出席
業界関係者	森 瞭維智	株式会社 FOREST Hunting One(代表取締役)	出席
高等学校	大山 明	久留米市外三市町高等学校組合立 三井中央高等学校(校長)	出席
地域住民	浦川 美代子	博多駅南1丁目1区自治会(会長)	出席
卒業生	大輪 健太郎	マンガ・イラスト・CG科CGコース 2019 年度卒業生	出席
保護者等	川口 多恵子	CG専攻科在校生 保護者等	出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時:2025年 7 月 2 日(水)15:00 ～ 16:00

場 所:麻生塾福岡キャンパス 6号館 5階 651教室

(※一部参加者はオンラインで出席)

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2024年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果、課題及び改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1)自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2)今後の解決方向が適切かどうか
- (3)学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4)その他、学校の運営に関する助言

5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

評価基準

S:適切

A:ほぼ適切

B:やや不適切

C:不適切

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【重点項目】

学生の成長実感

- 1)情報リテラシー教育の強化
- 2)学生持ち込みPCの導入

卒業生の増加

- 1)希望に沿った柔軟な進路指導の強化

企業コミュニケーション

- 1)学内制作展(年2回)の企業案内強化
- 2)業界団体への参加

【取組み状況及び総括(成果と課題)】

<取組み状況>

学生の成長実感

- 1)アニメやイラストなどの学科では、ペンタブレットなどの電子機器を使用した学習が中心であるが、これまで情報リテラシーの指導が十分ではなかった。そのため、1年次の全クラスに対して情報リテラシーの科目を共通科目として導入し、文部科学省認定の検定資格である情報活用試験3級の内容で授業を行った。コンピュータの基礎を理解する事ができ、自分が利用している機材についての理解が深まった。生成AIやSNSで情報発信など親和性の高い分野でもあるので、更なる造詣向上に努めていきたい。
- 2)専門技術を学ぶ上で自分の道具を持つ事で、愛着のある学習環境の整備を行う目的で、学生個人にノートパソコンを準備していただき、学校に持ち込んで授業を行う取り組みを開始した。導入に関してはノートパソコンのみで準備可能となる比較的構成がシンプルなゲーム専攻科とゲーム学科に限定し、2025年度の新入生からの取り組みとした。
募集活動の段階から説明を行い入学確定時に説明資料と共に理解を促した。

卒業生の増加

- 1)翌年に就職年次を迎える学年では、分野毎に目標とする職種を前提とした就職指導を行ってきたが、企業への就職を卒業後の進路としないなど希望先が多様化する中、統一した指導が困難になっていた。そうした背景を踏まえ、面接や書類作成などの基本的な就職対策については、全学科共通科目として標準的な指導を行い、それ以上の内容については進路希望調査をもとにした個別指導を行うように仕組みを変更した。導入後は、個々の学生がリラックスして就職年次に臨む事ができていたと感じる。

企業コミュニケーション

- 1)8月と2月に、ゲーム・CG・アニメ・マンガ・イラストの5つの分野共通での学内制作展を企画した。卒業年度や希望職種などの分類を行うなど、より採用活動に近くなるように展示を工夫した。又、2日間での開催中、1日を企業向けに設定し集中して見ていただけるような配慮を行った。
- 2)産学官の連携強化を念頭に、九州・福岡のゲームソフト制作関連会社とゲーム系教育機関で構成された任意団体、GFF「GAME FACTORY FUKUOKA」に学校会員として加入した。年間を通して定例会を中心として業界動向の共有を行った。具体的な産官学の取り組みにまでは至っていない。

<総括(成果と課題)>

業界動向や学生の希望とも多様性が高まる中、双方の動向を注視する事が重要である。学校の現場では日々の変化に対して仕組みとして落とし込む必要があるため、可能な限り迅速に実行する事を心掛け、具体的な施策として取り組んだ。結果、年初に目標を立てた項目に対しては達成する事ができたが、短期的なものだけでなく、大きなテーマとして長期的に取り組む事も重点項目に取り入れていくべき課題である。

【委員からのご意見】

- ・共通科目として「情報リテラシー授業」を設置し、専門分野以外の知識を習得する取り組みを評価します。学生はコンピュータの基礎を理解し、日常的に利用している機器に関する理解も深めることができると思う。
- ・卒業後の進路希望が多様化する中で、教員による就職指導は重要性を増しています。学生一人ひとりの希望に応じた進路実現が可能となることを期待します。
- ・GFF「GAME FACTORY FUKUOKA」に学校会員として加入したことで、業界動向などの情報収集の機会も増え、学生にとっても有益な情報を得られると思う。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

学校の教育理念、教育目標(育成人材像)等については明文化し、ホームページ上に情報公開の項目を整え、社会に公表している。本校の理念や目的は法人の理念を基に展開しており、当該年度の事業計画書に掲載し、全教職員で共有している。また、講師会や学校関係者評価委員会でも講師や委員へ周知している。

新入生に対しては、それらを掲載した学生便覧を全員に配布し、オリエンテーションや各ホームルームにて周知、指導するとともに、「GCB 教育」(グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)を通して麻生塾の卒業生としてふさわしい態度や考え方を育むようにしている。

教職員に対しては、学校の教育理念、教育目的および育成人材像を、学校独自で作成している運用マニュアル「業務 BOOK」に記載し、年初のキックオフ会議(当該年度における学校の運営方針・年度目標について、教職員全員で共有および認識統一を図るための会議)にて共有を図った。また、教職員・非常勤講師へは、一人ひとりに学生便覧を配布し周知を行った。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

委員の方からの意見は特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果: 適正

- 2-1:学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか
- 2-2:事業計画を作成し、執行しているか。
- 2-3:運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。
- 2-4:人事・給与に関する制度を確立しているか。
- 2-5:情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

〔2-1〕

運営方針は法人の理念と学校の理念に基づいて策定され、規定通り運営している。

運営方針・事業計画の全教職員への共有・説明については、学校独自で作成している運用マニュアル「業務 BOOK」を作成し、年初のキックオフ会議(当該年度における学校の運営方針・年度目標について、教職員全員で共有および認識統一を図るための会議)において全体共有を図ると共に、ルールブックとして活用している。

〔2-2〕

運営方針に沿った事業計画を策定し、年初のキックオフ会議(当該年度における学校の運営方針・年度目標について、教職員全員で共有および認識統一を図るための会議)において全体共有を図った。

学生支援体制、学生募集、人材育成、出席率、退学率、分野毎の検定・コンテストの目標設定を行い、数値目標を立て管理を行った。執行状況については「分野別報告書」を作成し月次報告として毎月のリーダー会議において、状況の共有および対策の検討を行った。また、募集状況、就職状況についてはサマリーシートでの管理を行い、校長代行が毎月の経営会議にて経過報告と情報共有をしている。部門で集約した情報については、全体に通知して共有を図った。

〔2-3〕

法人としての運営組織や意思決定機関は明文化され、有効に機能している。理事長・副理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会を隔月開催しており、組織の課題等について合議している。また、各校・各部門の校長代行、部門長以上が情報共有を行う部門長会議など各階層別・目的別で必要な会議体が設計されており、計画通りに開催されている。

学校運営については、校長代行、教務主任を中心に定例会議を行い、その後、分野毎に配置したリーダーを中心に部門会議を開催し、部門内の情報共有と意思決定の場として活用している。各部門内でリーダーによる意思決定が可能な事項に関しては「部門会議」、他部門に影響し校長代行の意思決定が必要な事項に関しては「リーダー会議」としている。レポートラインについては、学校独自で作成している運用マニュアル「業務 BOOK」にも記載し明確化されており、年初のキックオフ会議(当該年度における学校の運営方針・年度目標について、教職員全員で共有および認識統一を図るための会議)にて全体共有されている。

事務職員の能力向上については、担当業務に必要な能力と本人の意欲を鑑みた上で、面談等により目標を設定し研修への参加などの方策を講じている。また、本校の事務職員は学生の就職支援や学生募集等を行っており、企業との面談等で情報や知識を得ている。

〔2-4〕

就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書が法令に遵守し整備されている。

また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程のメンテナンスを実施している。

諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ

周知されている。

2024 年 4 月の人事制度改正にて、新制度設計の整備が完了し、教職員への変更点説明会を実施し周知を行った。併せて、各個人の理解が深まるよう新旧対照表とともに FAQ を公開し周知されている。

採用活動においては年間採用計画をもとに、募集を自社ホームページや外部媒体に適宜掲載し欠員・充足状況等をふまえ更新している。選考過程ではシステムに経過や決裁等を記録保管し、適正に活動をすすめている。

〔2-5〕

学校法人麻生塾独自の情報システム「麻生塾システム」を活用し、情報管理を図っている。この情報システムは、学校だけではなく、学校法人麻生塾の全部門が使用しており、情報の共有化や一元化が図られている。

学生に周知、連絡すべきことについては、情報発信を一本化して Microsoft Teams による全学生向けの掲示板を作成し運用を行った。これにより情報の内容が均一化し、記録も残り何度でも確認できるため、伝達ミスが減少し学生からの問い合わせも減少した。この掲示板は、緊急連絡、各種申請、検定試験、注意喚起など、学校生活に必要とされる情報を分野毎にまとめている。

教職員同士の情報共有、コミュニケーションのツールとしても Microsoft Teams を利用し、毎日の朝礼については「朝礼通信」として、伝達事項を掲示板に書き込み共有を図った。

【課題及びその改善方策】

〔2-1〕

特になし

〔2-2〕

特になし

〔2-3〕

特になし

〔2-4〕

特になし

〔2-5〕

特になし

【委員の方からのご意見】

〔2-1〕

委員の方からの意見は特になし

〔2-2〕

委員の方からの意見は特になし

〔2-3〕

委員の方からの意見は特になし

〔2-4〕

委員の方からの意見は特になし

〔2-5〕

委員の方からの意見は特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S	S
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S	S
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	S	S
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	S	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S	S
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S	S
2-5-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	S	S

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果: 適正

3-1:教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

3-2:教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

3-3:教育の評価を適切に行っているか。

3-4:成績評価と単位認定を適切に行っているか。

3-5:教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための
資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

〔3-1〕

教育理念、教育目的および育成人材像に沿ったディプロマ・ポリシーならびにカリキュラムポリシーについては役職会にて決定したものを明文化し、全教職員にて共有している。学生に対しては学生便覧にて、非常勤講師には講師会と学生便覧にて周知している。また、社会に対してはホームページにて公表している。

カリキュラムをはじめとした教育課程全般の検証のために、教育課程編成委員会を年に2回実施し、適切な教育が行われているかの検討会議を行ない、定期的に検証と改善を図っている。

教育課程編成委員会にていただいたご意見は、分野毎のカリキュラム会議で科目間の繋がりや教育目標に適した内容であるかの協議した後、カリキュラムに反映させている。

〔3-2〕

カリキュラムは、教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程編成委員会の実施し、委員会後には、各分野の教員がカリキュラム会議を開催し、より実践的な教育課程と授業科目となるよう見直しを図っている。

各科目では学習目標を達成するため、シラバスやコマシラバスを策定している。また、業界の人材ニーズに対応するため、教育内容の定期的な見直しを行い、教育の充実を図っている。特に実践的な職業教育を目指し、分野ごとに企業と連携した演習科目を教育課程に体系的に設定している。

キャリア教育では、キャリアデザインの授業で「就職ガイドブック」を活用し、学生の社会的・職業的自立に向けた必要な能力と態度の育成を進めている。次年度就職年次の「就職実務」では、全該当クラスで実施内容を指定し、授業内容の標準化を図った。新たに人材教育動画教材である「mitoite(ミトイテ)」を導入し、社会人に必要な常識やビジネスマナー、仕事への心構えなどの働く事への意識付けを行った。

さらに、キャリア教育の一環として、グローバルシティズン・ベーシック教育(GCB 教育)、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)を実施し、学生が社会的・職業的自立に必要な能力や考え方を習得・育成できるよう取り組んでいる。

〔3-3〕

学生による授業アンケートおよびホームルームクラスアンケートを前期末と後期末に全科目で実施し、管理職が中間・期末の個人面談時に各教員へ結果をフィードバックした。その際、授業とクラス運営に関する評価や改善点を共有し、授業内容や実施方法の改善に取り組んだ。

さらに、経験の浅い教員に対しては、授業ミニアンケートを適時活用し、授業の進め方や説明方法などを早期に評価し改善に繋げる仕組みを整えている。また、教員ごとに全担当科目の授業運営状況をまとめた「授業報告書」を月次で提出し、全教員で共有する体制を構築した。これにより、授業進捗の確認や情報共有を行っている。

〔3-4〕

全ての科目で成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確に定め、正試験および正試験に準ずる方法で適切に評価している。評価規定は学生便覧を通じて学生に周知しており、各科目の評価基準についてもシラバスに記

載して周知している。

遠隔授業における成績評価・単位認定についても、所轄官庁および法人の基準に則り、適切に運用している。また、各科目の試験や課題内容については、クラスごとに一覧表にまとめ、試験期間前に学生全員へ共有した。

さらに、成績評価に関する具体的な採点基準は、筆記試験や作品課題を含め科目ごとに一覧にまとめ、事前に学生へ周知している。成績評価基準が適切であるかどうか、継続的に確認を行い、課題のレベルや内容の質向上に取り組んでいる。

進級判定および卒業判定は、学校法人麻生塾福岡キャンパスの校長や校長代行が進級判定会議・卒業判定会議を通じて決定している。

〔3-5〕

法令に則り、学校の教育理念や目的の達成に必要な教育課程の種類、分野、学生数を考慮し、必要な教員組織を構築している。採用後は、指導担当者(チューター)を配置し、OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング。実際の職場で業務を通じて学ぶ訓練)を行うことで、指導力の向上と組織への順応を促している。

また、教員の専門性や指導力を向上させるため、企業等が実施する研修参加状況を全体で一元管理するとともに、分野ごとに計画的に参加し、専門分野の実務能力や学生指導力の向上を図った。

さらに、学校行事や委員会など通常授業外の業務についても適切に業務分担を行い、業務の平準化を進め、教職員全体の質の向上に取り組んでいる。月末の「部門報告書」での報告や、月例のリーダー会議を通じて、情報を共有し連携を強化している。

【課題及びその改善方策】

〔3-1〕

特に課題はないが、業界の変化に素早く対応できる体制を構築しておく。

〔3-2〕

特になし

〔3-3〕

中間面談時のフィードバックは行ったが、実施内容についての記録が不十分であった。教員毎の改善項目を集約し改善項目を明確にするための記録を残す仕組みを構築する必要がある。

尚、後期末のアンケートについては、授業が終了している事もあるので改善項目を即座に反映しにくい点がある。次年度に向けての改善テーマとして、設定し易いアンケート項目への見直しも検討していきたい。

〔3-4〕

特になし

〔3-5〕

特になし

【委員の方からのご意見】

〔3-1〕

委員の方からの意見は特になし

〔3-2〕

業界の変化に素早く対応できる体制を構築していく、教職員の方々の努力を評価する。

〔3-3〕

小項目の「3-3-4」「3-3-5」は昨年度も A 評価でした。次年度は実施方法を見直し、改善することを期待する。

〔3-4〕

委員の方からの意見は特になし

〔3-5〕

委員の方からの意見は特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	S	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S	S
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	S	S
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	S	S
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	S	S
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S	S
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S	S
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	S	S
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	S	S
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	S	S

3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	A	A
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	A	A
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S	S
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	S	S
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S	S
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S	S
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	S	S
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	S	S
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	S	S

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果: 適正

4-1:学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

4-2:卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

〔4-1〕

就職率、資格・検定取得率、退学者数の目標値については、事業計画の中で全教職員に周知している。進捗状況は、毎月のクラス運営報告書で各クラスの状況を報告し、学校全体で共有した。

就職率に関しては、週1回の就職部会を実施し、進捗状況の共有を行っている。部会では、求人情報や企業説明会の情報を共有するとともに、学生が受験する際の注意点を確認している。また、就職率向上を目的に、就職担当者と担任が各学生の状況を共有し、連携して就職指導を行った。さらに、必要に応じて面接教室や就職サポート室の活用を学生に促した。

資格・検定取得については、分野別会議を中心に取得率向上策を検討・実施するとともに、次年度に向けたカリキュラム会議で、向上策をカリキュラムやシラバスに反映している。

退学防止については、クラス担任が日常的に学生をケアし、出席率の低下など退学の兆候が見られる学生については、分野別会議で対策を協議している。また、リーダーや管理職が担任に協力し、退学防止策を講じている。

さらに、美術展の鑑賞やミュージカル観劇など、学外での活動を増やすことで、学生のモチベーションを維持し、視野を広げる取り組みを積極的に行った。

〔4-2〕

卒業生の就業状況については、学校法人麻生塾就職支援グループ(以下「就職支援グループ」)が中心となり、就職先企業の協力を得て卒業生向けアンケートを実施した。このアンケート結果に基づき、離職率を把握している。

また、企業における卒業生の活躍状況や、企業が学校の教育活動に期待する内容については、就職担当職員が企業から聞き取りを行い、その情報を就職部会などで教員に共有している。

【課題及びその改善方策】

〔4-1〕

特になし

〔4-2〕

今後も卒業生アンケートの結果を就職支援グループと共有し、学校全体として卒業生の状況を把握できる体制を継続していきたい。

【委員の方からのご意見】

〔4-1〕

留学生の在校生数も増えているので、留学生が希望進路に進めるよう就職サポートを継続的に行ってほしい。

〔4-2〕

・小項目の「4-2-2」は、昨年度はA評価でしたが、今年度はS評価に上がっており、教職員の方々の努力を評価する。

・卒業生の情報は個人情報保護法で就職先からの情報も入りにくいと思いますので、出来る限りの把握を継続してください。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S	S
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	S	S
4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S	S
4-1-4	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S	S
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S	S
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	S	S

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果: 適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

麻生専門学校グループには、グループ各校を支援するために、学校法人麻生塾学生支援グループや就職支援グループなどが設置されており、各校の教職員と連携して、留学生を含む全学生に対して修学支援、生活支援、就職・進路支援を行っている。

就職・進路支援では、学内に就職専任スタッフを配置し、担任と連携して求人案内や受験支援を実施している。また、Microsoft Teams 上で就職専任スタッフと対象学生の共有グループを作成し、求人情報や企業説明会の案内を円滑に伝達している。

学生の生活環境支援では、学生相談室の利用利便性を向上させるため、利用申込方法を記載した案内カードを名札に入れて常時携帯できるようにし、必要な際に迅速に申し込める体制を整備している。さらに、保健室を2部屋設置し、利便性を向上させている。担任教員は学生や保護者と適宜面談を行い、必要に応じて管理職が同席している。また、面談の内容は麻生塾システムに記録し、学校全体で情報を共有している。

各種支援金制度や奨学金、課外活動、学外イベントの案内については、案内資料と Microsoft Teams の学生ポータルを活用し、確実な周知を図った。

さらに、卒業生に対しては、再就職相談や再就職の斡旋などを行う専用サイトを設け、引き続きサポートを提供している。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

学生相談室の設置など、組織で学生支援体制を構築していることを評価する。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	S	S
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S	S
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S	S

5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	S	S
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	S	S
5-1-7	卒業生への支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-8	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-9	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	S	S
5-1-10	学生に対する修学支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-11	入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。	S	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者（給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者）をいう。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果: 適正

6-1:教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

6-2:教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

〔6-1〕

施設および設備については、設置基準を遵守し、教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育に必要なものを整備し、適切に管理している。また、設備整備に関しては学校法人麻生塾業務推進グループと連携し、年度ごとに教室の見直しや設備の補充・修繕を行い、教育環境の維持に努めている。

さらに、自宅でオンライン授業を受講するための推奨環境を資料化し、新入生向けの入学説明資料に同封して郵送することで、案内を行っている。

麻生専門学校グループ福岡キャンパスの共用施設として、総合図書館を設置している。総合図書館では、規程やルールを定め学生便覧に掲載すると共に、教室内へ利用案内を掲示する等、学生への周知を図っている。

また、固定資産管理規程に基づき、図書や雑誌を含む資料類を適切に管理している。

〔6-2〕

学内外の安全対策については、防災および防犯設備の点検を定期的に行っている。また、学校全体での避難訓練を火災・地震の両方で実施し、避難訓練用の全館放送を活用した。さらに、避難経路を全教室および共用部に掲示し、教職員および学生、非常勤講師への周知徹底を図った。

学校の安全管理については、校長代行を中心とした組織体制を整備し、大雨や台風時には Microsoft Teams を活用して指示や情報伝達を迅速に行っている。また、学生の登下校および学校生活における防犯面について注意喚起を行い、安全確保に配慮している。

インターンシップにおいては、手続き書類、保険、報告書類などを整備し、それに基づいて実施を行った。

【課題及びその改善方策】

〔6-1〕

特に課題はないが、校内の施設および設備については、定期点検を実施し、不備を早期に発見することで、適切な維持・管理に努める。教育機材などの管理については、台帳を整備し、適切に管理・運用する。

〔6-2〕

特に課題はないが、避難訓練を 11 月に実施したため、年初の早い時期に実施するように調整していく。

【委員の方からのご意見】

〔6-1〕

法人として、組織で学生の教育環境を整備されていると評価する。

〔6-2〕

大雨などの自然災害が増加しているため、学生の安全確保を引き続き徹底してください。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S	S
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S	S
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	S	S
6-2-3	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S	S

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果: 適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

本校は、教育目標(育成人材像)に基づき策定したアドミSSION・ポリシーを全教職員に周知し、募集要項およびホームページを通じて社会に公表している。

募集活動では、募集要項およびホームページに入学者選抜方法を明示し、公正かつ適切に実施している。入学者選抜基準を明確に定め、オンラインと対面の両方に対応した実施体制を整え、適正に選抜を行っている。また、入学のミスマッチを防ぐ目的で、学内で学科説明を受けていない対象者には、入学選抜時に別途ガイダンスを実施している。

教育成果は、パンフレットやホームページを通じて卒業後の就職・進路実績を中心に情報を公開している。

校納金は、適切な授業料や入学金等を設定している。教材費については、各学科のカリキュラムに合致した教材等を教務部で協議し、その妥当性と透明性を確認したうえで決定している。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、高等学校での進路ガイダンスへの積極的な参加を継続し、入学対象者である高校生や高等学校が上級学校に求めるニーズを把握し、それを学生募集活動に反映する。

【委員の方からのご意見】

委員の方からの意見は特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミSSION・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S	S
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	S	S

基準 8 財務

学校関係者評価結果: 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えているといえる。

予算計画は、学校運営計画に即した編成を行っている。予算執行についても、計画に基づき適切に執行されているかどうか確認を行い管理している。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。

なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

委員の方からの意見は特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S	S
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S	S

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果: 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

法令および専修学校設置基準については、学校法人麻生塾法務グループや学校法人麻生塾教育推進グループ等と協議し、職業実践専門課程および文部科学省専門課程認定校の基準と併せて遵守している。

教育環境に関しては、担当部門と協議のうえ、教室設備の見直しや教員配置の確認を行っている。

また、関連法令が新設・改定・変更された場合は、法人本部の助言と協力を受けながら適切に運営を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

委員の方からの意見は特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S	S

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果: 適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

本年度は、学校教育および学校運営において、自己点検・評価の重要性を学校全体で共有し、管理職だけでなく一般教職員にも高い意識を醸成する必要があると判断し、全教職員による自己点検・評価を実施した。その結果を踏まえ、組織的な改善に取り組む事ができた。

また、職業実践専門課程の基準に基づき、学校関係者評価委員会を開催し、委員からの意見を反映させた教育に関する検証を行っている。

さらに、社会に対する説明責任を果たすため、自己点検・評価結果および学校関係者評価結果をホームページにて公表している。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、自己点検・評価の評価項目を部門全体に共有し、日常業務として取り組む必要性を引き続き周知する。

【委員の方からのご意見】

小項目の「10-1-1」は、昨年度はA評価でしたが、今年度はS評価に上がっており、自己点検・評価の評価項目を部門内全体で共有し、日常業務としての取り組みができていると思う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	S	S
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	S	S
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	S	S
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	S	S
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S	S

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果: 適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

本校は、学校特性を活かし、福岡県立美術館と連携して地域の芸術活動を醸成する地域貢献活動として作品展示を行った。その後も、美術館鑑賞などの行事に繋がり、教育効果の向上にも寄与した。

また、地域の高等学校と連携し、高校生を対象に学校教育内容の特徴を活かした体験授業を実施し、職業理解を深める場を提供している。

学生のボランティア活動については、学校関係者評価委員会の中で自治体等の意見を聴取し、学生を募って学校近隣の公園の清掃活動を地域住民の方々と一緒に年2回実施した。

さらに、ボランティア活動の周知には、Microsoft Teamsの学生掲示板を活用し、情報を効率的に共有している。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

公園清掃の参加ありがとうございました。地域住民の方々も学生たちと清掃活動を通じて交流でき、非常に良い機会になりました。今年度も引き続き、公園清掃にご参加ください。(地域住民の委員の方のご意見)

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S	S

以上